

# 新規採用・削除医薬品等通知

## 新規採用医薬品通知

(薬品名)	<b>献血ヴェノグロブリン IH 10%静注</b> <b>0.5g/5mL,2.5g/25mL,5g/50mL,10g/100mL,20g/200mL</b>	特 生
(英名)	Venoglobulin IH 10% iv	
(規格・含有量)	0.5g/5mL,2.5g/25mL,5g/50mL,10g/100mL,20g/200mL	
(一般名)	人免疫グロブリン G	
(メーカー名)	日本血液製剤機構	
【薬価収載日】	2018 年 5 月	
【薬価】	0.5g/5mL: 4559 円 2.5g/25mL: 20525 円 5g/50mL: 38547 円 10g/100mL: 77245 円 20g/200mL: 154188 円	
【薬効コード】	876343	
【薬効分類名】	血漿分画製剤	
効能・効果	<ol style="list-style-type: none"> <li>低並びに無ガンマグロブリン血症</li> <li>重症感染症における抗生物質との併用</li> <li>特発性血小板減少性紫斑病(他剤が無効で、著明な出血傾向があり、外科的処置又は出産等一時的止血管理を必要とする場合)</li> <li>川崎病の急性期(重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合)</li> <li>多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)</li> <li>慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善</li> <li>慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の運動機能低下の進行抑制(筋力低下の改善が認められた場合)</li> <li>全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る)</li> <li>天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合)</li> <li>血清 IgG2 値の低下を伴う、肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず、発症を繰り返す場合に限る)</li> <li>水疱性類天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合)</li> <li>ギラン・バレー症候群(急性増悪期で歩行困難な重症例)</li> </ol>	
用法・用量	<p>本剤は効能・効果に応じて以下のとおり投与する。なお、直接静注する場合は、きわめて緩徐に行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低並びに無ガンマグロブリン血症:通常、1 回人免疫グロブリンGとして200~600mg(2~6mL)/kg体重を3 ~ 4 週間隔で点滴静注又は直接静注する。患者の状態によって適宜増減する。</li> <li>・重症感染症における抗生物質との併用:通常、成人に対しては、1 回人免疫グロブリンGとして2,500~5,000mg(25~50mL)を、小児に対しては、1 回人免疫グロブリンGとして100~150mg(1~1.5mL)/kg体重を点滴静注又は直接静注する。症状によって適宜増量する。</li> <li>・特発性血小板減少性紫斑病:通常1 日に、人免疫グロブリンGとして200~400mg(2~4mL)/kg体重を点滴静注又は直接静注する。なお、5 日間使用しても症状に改善が認められない場合は、以降の投与を中止すること。年齢及び症状に応じて適宜増減する。</li> <li>・川崎病の急性期:通常、人免疫グロブリンGとして1 日に400mg(4mL)/kg体重を5 日間点滴静注又は直接静注する。</li> </ul>	

	<p>注、若しくは人免疫グロブリンGとして2,000mg(20mL)/kg体重を1 回点滴静注する。なお、年齢及び症状に応じて適宜減量する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る):通常、成人には1日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5 日間点滴静注する。</li> <li>・慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善:通常、1 日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5 日間連日点滴静注又は直接静注する。なお、年齢及び症状に応じて適宜減量する。</li> <li>・慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の運動機能低下の進行抑制(筋力低下の改善が認められた場合):通常、人免疫グロブリンGとして「1,000mg(10mL)/kg体重を1日」又は「500mg(5mL)/kg体重を2 日間連日」を3 週間隔で点滴静注する。</li> <li>・全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限る):通常、成人には1 日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5 日間点滴静注する。</li> <li>・天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合):通常、1 日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5 日間連日点滴静注する。なお、年齢及び症状に応じて適宜減量する。</li> <li>・血清IgG2値の低下を伴う、肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず、発症を繰り返す場合に限る):人免疫グロブリンGとして初回は300mg(3mL)/kg体重、2 回目以降は200mg(2mL)/kg体重を投与する。投与間隔は、通常、4週間とする。</li> <li>・水疱性類天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合):通常、1 日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5 日間連日点滴静注する。</li> <li>・ギラン・バレー症候群(急性増悪期で歩行困難な重症例):通常、1 日に人免疫グロブリンGとして400mg(4mL)/kg体重を5 日間連日点滴静注する。</li> </ul>
禁忌	本剤の成分に対しショックの既往歴のある患者
相互作用	<b>他剤作用減弱</b> 非経口用生ワクチン
副作用	<b>重大な副作用</b> ショック、アナフィラキシー、肝機能障害、無菌性髄膜炎、急性腎障害、血小板減少、肺水腫、血栓塞栓症、心不全 <b>その他</b> 肝機能検査値の異常[AST(GOT), ALT(GPT), $\gamma$ -GTP, ALPの上昇等]

(薬品名)	<b>ベオーバ錠 50mg</b>	市販直後調査 2018年11月～2019年5月
(英名)	Beova tablets	
(規格・含有量)	1錠中、ビベグロン 50mg	
(一般名)	ビベグロン	
(メーカー名)	キッセイ薬品工業株式会社	
【薬価収載日】	2018年11月	
【薬価】	185.70円	
【薬効コード】	87259	
【薬効分類名】	選択的 $\beta$ アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤	
効能・効果	過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁	
用法・用量	通常、成人にはビベグロンとして50mgを1日1回食後に経口投与する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	<b>本剤作用増強</b> アゾール系抗真菌剤、HIVプロテアーゼ阻害剤 <b>本剤作用減弱</b> リファンピシン、フェニトイン、カルバマゼピン	
副作用	<b>重大な副作用</b> 尿閉 <b>その他</b> 5%以上の記載なし	

## 後発医薬品採用通知

今回採用医薬品(採用)	従来採用医薬品(削除)
●2月1日より グリベンクラミド錠 1.25mg 「トーワ」 トラセミド OD 錠 4mg 耐性乳酸菌散 10% 「トーワ」 ボグリボース OD 錠 0.3mg 「武田テバ」 カルボシステイン錠 500mg 「サワイ」	オイグルコン錠 1.25mg ルブラック錠 4mg エンテロノン R 散 ベイスン OD 錠 0.3mg ムコダイン錠 500mg

## 削除医薬品通知

ペリセート 360NL 排液バッグなし 2L 1/31 まで

## 医薬品名称変更通知

変更後	変更前
●2月1日より メナテトレノンカプセル 15mg 「トーワ」(採用メーカー変更) クエン酸第一鉄 Na 錠 50mg「武田テバ」 ニトログリセリン静注 5mg/10mL「TE」、ニトログリセリン点滴静注 25mg/50mL「TE」	メナテトレノンカプセル 15mg 「KTB」 フェロステック錠 50mg ミオコール静注 5mg、ミオコール点滴静注 25mg(在庫消尽後)

## 医薬品剤形追加通知

ピートル顆粒分包 250mg 2/1～  
エンシュア・H(コーヒー味) 2/1～ \*黒糖味との切り替え期間を設ける。後に黒糖味は削除

## 適応追加通知

レベトールカプセル 200mg	<p><b>【効能・効果】</b> 1～4 省略</p> <p><b>5.ソホスビル・ベルパタスビル配合剤との併用による、前治療歴を有するC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善</b></p> <p><b>【用法・用量】</b> インターフェロン ベータ、ソホスビル、オムピタスビル水和物・パリタプレビル水和物・リトナビル配合剤又はソホスビル・ベルパタスビル配合剤との併用の場合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">患者の体重</th> <th colspan="3">リバピリンの投与量</th> </tr> <tr> <th>1日の投与量</th> <th>朝食後</th> <th>夕食後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60kg以下</td> <td>600mg</td> <td>200mg</td> <td>400mg</td> </tr> <tr> <td>60kgを超え80kg以下</td> <td>800mg</td> <td>400mg</td> <td>400mg</td> </tr> <tr> <td>80kgを超える</td> <td>1,000mg</td> <td>400mg</td> <td>600mg</td> </tr> </tbody> </table>	患者の体重	リバピリンの投与量			1日の投与量	朝食後	夕食後	60kg以下	600mg	200mg	400mg	60kgを超え80kg以下	800mg	400mg	400mg	80kgを超える	1,000mg	400mg	600mg
患者の体重	リバピリンの投与量																			
	1日の投与量	朝食後	夕食後																	
60kg以下	600mg	200mg	400mg																	
60kgを超え80kg以下	800mg	400mg	400mg																	
80kgを超える	1,000mg	400mg	600mg																	
テセントリク点滴静注 1200mg	<p><b>【効能・効果】</b> 変更なし</p> <p><b>【用法・用量】</b> <b>化学療法未治療の扁平上皮癌を除く切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者の場合</b> カルボプラチン、パクリタキセル及びペバシズマブ(遺伝子組換え)との併用において、通常、成人にはアテゾリズマブ(遺伝子組換え)として1回1200mgを60分かけて3週間間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。 <b>化学療法既治療の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者の場合</b> 通常、成人にはアテゾリズマブ(遺伝子組換え)として1回1200mgを60分かけて3週間間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。</p>																			
ピソノテープ 4mg	<p><b>【効能・効果】</b> 1.(略)</p> <p><b>2.頻脈性心房細動</b></p> <p><b>【用法・用量】</b> 1.略</p> <p><b>2.頻脈性心房細動</b> 通常、成人にはピソプロロールとして1日1回4mgから投与開始し、効果が不十分な場合には1日1回8mgに増量する。本剤は胸部、上腕部又は背部のいずれかに貼付し、貼付後24時間ごとに貼りかえる。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最大投与量は8mgとする。</p>																			
ビムパット錠 50mg/100mg	<p><b>【効能・効果】</b> 変更なし</p> <p><b>【用法・用量】</b> 成人:略</p> <p>小児:通常、4歳以上の小児にはラコサミドとして1日2mg/kgより投与を開始し、その後1週間以上の間隔をあけて1日用量として2mg/kgずつ増量し、維持用量を体重30kg未満の小児には1日6mg/kg、体重30kg以上50kg未満の小児には1日4mg/kgとする。いずれも1日2回に分けて経口投与する。なお、症状により体重30kg未満の小児には1日12mg/kg、体重30kg以上50kg未満の小児には1日8mg/kgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として2mg/kg以下ずつ行うこと。ただし、体重50kg以上の小児では、成人と同じ用法・</p>																			

用量を用いること。